



活躍するOB・OG

株式会社マルウ代表取締役として活躍。



阿部 和幸さん

千葉市立生浜中学校出身
三期(平成五年度卒)

エール

— 気高く、永遠に —

校長
石井 航太郎



同窓会の皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本校の教育活動に対し、多大なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、今年度はコロナ禍もようやく落ち着き、概ね予定通り学校行事を行うことができました。中でも初の取り組みとして千葉ポータルアリーナで開催した桜林ピックやコンピュータゲームを使ったe桜林ピックはどちらも大変な盛り上がりを見せました。

また、本校体育館で実施された同窓会総会では卒業後も多方面で立派に活躍されている皆様に久々にお会いすることができ、大変有意義な総会となりました。

変化する社会の中で、これからも母校で培った「自己確立・自他共楽」の精神を「Challenge&Change」の姿勢を忘れず健康に留意され、益々ご活躍されますことをお祈りしております。



卒業後に就職した会社で三十年、現在は代表取締役。

逃げずに挑戦することの大切さ

高校選びは担任の先生の紹介で、少林寺拳法の精神を取り入れた厳しい学校という印象だけで受験しました。高校生活はとにかくきつかったという思い出がありません。何事にも一生懸命に取り組むことで自分自身を変えていく「チャレンジ&チェンジ」のローガンのもと何に対しても徹底していました。

三年間の高校生活では「何かを成し遂げるためには、粘り強い心と辛抱強さと、苦しさに耐える気持ちが大切だ」ということを学びました。踏まれても踏まれても生き抜く、雑草のような強さをもった人間になると決めたのかも知れません。とても大変な高校生活でしたが、三年間通い、卒業できたことが財産となったと今では感じています。

就職してからの下積み期間も、高校三年間の大変さに比べれば苦になりませんでした。振り返ると少林寺拳法の精神を学び、身につけた力は嫌なこと辛いことから逃げずにチャレンジしていく忍耐力だったのだと確信しています。

現在の仕事に就いたきっかけ

きっかけはもともと建築に興味があり、何となくですがもの作りに携わりたいと考えていました。学校に届いていた高卒求人を見て、現在代表取締役をしている会社に入社することを決めました。流れに逆らわず人との縁を大切にしていけば、より良い人生を送るきっかけとなるのかもしれない。

アルミサッシや住宅設備の打ち合わせ、見積作成、組立や現場納品など目の前のことを一生懸命やっているうちに三十年が経ち、いつの間にか責任ある立場になっていました。経営とは人に動いてもらう仕事、経営者は強烈な願望を心に抱き、こうありたいと思ったら、それを貫くだけの強い意志が必要です。

「うちの会社はこうでなければ、今後発展していかないんだ。どうしてもこうでなければならぬんだ。」という気持ちに自身がなることで、社員もそういう気持ちにさせていくのだと思っています。



今後の目標

他の会社と同じことをしていたのでは、同じことしかできません。抜きん出るためには、何倍もの努力と工夫がとても大切だと思っています。

業務も会社にあった方法をたえず工夫し、他社より何倍も努力することが業務実績を向上させる源になるという強い信念のもと七年前、取締役に就任してまず取り組んだのは整った職場環境の整備でした。社員の意識改革に繋がると信じ、工場の整理整頓とレイアウト変更に着手しました。

また、建物の外回りや会議室、事務所内なども改修する予定です。働きやすい環境を整えることによって社員の意識も変わり、労働時間も短縮され、生産性も向上し、増収増益につながり、東京商工リサーチによる全国で

上位8%の優良企業にも選ばれる会社に成長してきています。

今後もお世話になった方々に感謝しながら、誠実に地道にいい仕事をしていきたいと考えています。時代の変化とともに多様化する住まいに対するニーズにどう応えていくか、弊社にできる強みを活かしてサービスの向上に努め、皆様の幸せな暮らしを応援していきます。

在校生へのメッセージ

在校中は、毎日、勉強や部活に追われて気づかないかもしれませんが、夢中になれることがある方は今頑張っていることから逃げずに努力を継続してください。夢中になれることがない方は何か小さいことでもいいから目標を見つけて、それに挑戦してみてください。

高校時代に積み重ねたものが、将来やりたいことができたときに大事なことだったりします。高校三年間は一つも無駄なことなどないと思います。将来の目標が現れたときのための準備期間として歩むのも良いでしょう。いつか振り返った時、この高校生活が皆さんの人生にとってとても豊かな時間だったと実感することができる宝物のような三年間となることを祈っています。



第二十三回 令和五年度 同窓会総会開催

令和六年二月十二日(月)、母校体育館において同窓会総会が開催されました。母となってお子さんと一緒に参加された先輩(二十七期)や、昨年卒業されたばかりの先輩(三十二期)といった幅広い年代の参加となりました。

総会は海宝徳祐先輩(十六期)の開会宣言ではじまり、櫻井一貴会長(十二期)は、あいさつのなかで自身が理想とする同窓会の姿を示されました。それは、OB・OGが肩ひじを張らない自然体で、後輩や母校に対して今できることを真摯に考え、皆で実行して行こうという内容でした。その後、すべての議事が承認されると、内藤久茂先輩(一期)のあいさつで懇親会がはじまり、アトラクションでは、卒業後に自身の夢を叶え、プロ和太鼓奏者となった西田洸先輩(二十四期)と、同先輩が率いるチームの一員として活躍する直井拓巳先輩(三十一期)と現役和太鼓部員によるコラボレーションが実現し、会場を大迫力の演奏と感動で包みみました。

久しぶりの恩師との再会に皆が学生時代を懐かしみ、全員で校歌を斉唱して閉会となりました。

